

## 横浜市立大学大学院の再編について

### 1 経 緯

平成 17 年 4 月の法人化の際、それまでの理学部、国際文化学部、商学部の 3 学部を統合して国際総合科学部を設置するとともに、大学院は、医学研究科を除く 4 研究科を統合し国際総合科学研究科とし、6 つの専攻を設置することにより、専攻間の連携を強化し、大学院教育のグローバル化に対応できる運営体制を整備することができました。

しかしながら、国際総合科学研究科においては、中期目標の主眼である横浜市の抱える政策課題を実践的に研究解決するには従来培ってきた学術を基礎に、より実践的・新領域的な方向へと修正する必要があること、大学院が本来目指すべき教育研究の専門性を確保し、それを生かした実践教育を遂行することにより、大学の存在意義を学外に明確に示すという観点、さらに、外部資金獲得の競争面からも再編が必要となってきました。

また、医学研究科においては、市内看護師の確保、先端医療や実践的研究を支える看護レベルの確保、専門看護師の育成・活用による看護師の離職防止などの観点から、看護学専攻の設置が必要となっております。

そこで、平成 18 年度からの横浜市立大学大学院改革プロジェクトにおいて研究科の再編や新たな大学院の設置についての議論を進め、このたび、国際総合科学研究科の再編、医学研究科看護学専攻の新設についての方向性が次のとおりまとまりました。

### 2 横浜市立大学における大学院再編の方向

#### (1) 国際総合科学研究科の再編

近年の自然科学の飛躍的な発展、また、グローバル化による社会・経済活動の変化は、新たな学問領域の創設や社会制度の変革を必要としています。

そこで、新たな学問領域の構築と実践的な研究教育の場として再編を行い、各分野における次世代を担う人材の育成および研究成果や知的財産の還元などを通じて、積極的に地域貢献を果たします。

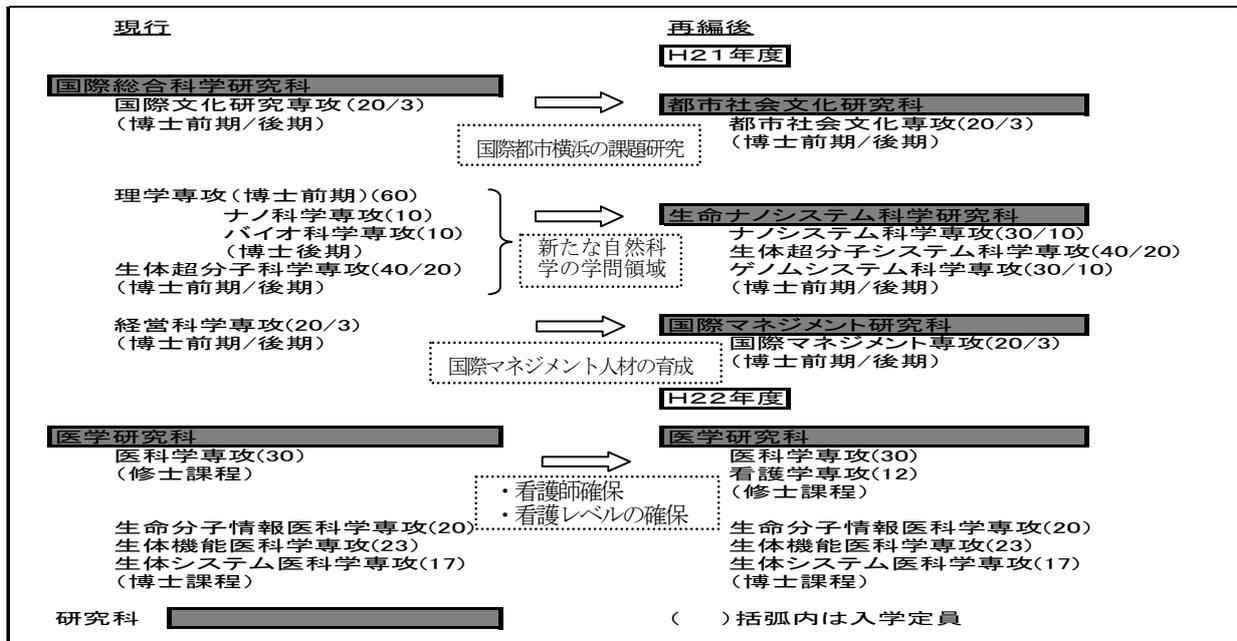
また、今回の理系分野の再編は、中期計画における生命科学分野の研究を推進するためにも重要な位置づけであり、今後、先端医科学研究センターの機能強化に併せ、医学研究科と生命ナノシステム科学研究科(仮称)等との再編を進めていきます。

#### (2) 医学研究科看護学専攻の新設

少子高齢化の問題、疾病構造の変化に伴う慢性疾患の増加と医療の高度化による人々の保健医療に対するニーズはますます多様化しています。そこで、現代の高度化・多様化する看護ニーズに対応できる先端医療看護学分野や地域生活支援看護学分野の専門看護師等の育成を図り、横浜市民の保健医療福祉の向上に貢献します。

また、医学研究科看護学専攻の新設にあたっては、実践経験の中から看護の特質を導き出し、専門性を高めることを目的として、社会人特別選抜、長期履修制度、夜間開講制度なども取り入れ、働きながら学べる環境整備を積極的に図ります。

なお、看護師不足の解消と市内定着を図るため、平成 22 年度から医学部看護学科 10 人の学生定員増も併せて、予定しています。



### 3 国際総合科学研究科再編の概要

#### 都市社会文化研究科(仮称) 【入学定員】博士前期：20名、博士後期：3名

#### (1) 教育研究の内容

都市社会を構成する人々への深い理解を獲得するために文化、思想、宗教、民族等にかかわる人文科学を基盤として学び、その応用として現実の都市問題に実践的に取り組む、他大学では類を見ない横浜発の応用人文科学を創造します。

#### (2) 育成する人材

大都市における地域ガバナンスの形成に取り組む人材、多文化共生社会の形成を支援するNPOスタッフ、環境文化都市の創造を目指す企業人、国際的な都市間協力ネットワークを支える人材などを育成します。

#### (3) 期待される成果

大都市制度、多文化共生社会、環境文化都市の創造、国際的な都市間連携など横浜市の政策課題に直結するテーマの教育研究を行うことにより、研究成果、人材育成の両面で横浜市に貢献します。

#### 生命ナノシステム科学研究科(仮称) 【入学定員】博士前期：100名、博士後期：40名

#### (1) 教育研究の内容

創薬・医療や食糧・生物環境などの人類社会の永続的発展のために必要な諸問題に合理的な解決策を見出すべく、これまでの物理・化学・生物の融合をさらに進め、「生命の持つ複雑な機能・組織を物質要素の組み合わせ(システム化)により発現すると考える、ボトムアップの立場から生命システムを解明する」という新しいアプローチによる教育研究を行います。

#### (2) 各専攻の概要

ア ナノシステム科学専攻(八景キャンパス) [博士前期：30名、博士後期：10名]

計測・情報科学に基づき電子・原子・分子レベルからの生命システム構築の理解を目指します。

イ 生体超分子システム科学専攻(鶴見キャンパス) [博士前期：40名、博士後期：20名]

構造生物学に基づき原子レベルからの生体超分子システム構築の理解を目指します。

ウ ゲノムシステム科学専攻(八景・舞岡キャンパス) [博士前期：30名、博士後期：10名]

ゲノム科学に基づき遺伝子・タンパク質レベルからの細胞システム構築の理解を目指します。

(3) 育成する人材

次世代の薬品設計開発、食品開発、環境問題を解決する環境保全生物開発、環境改善物質開発、情報・エネルギーに関連する有機デバイス開発の人材を育成します。

(4) 期待される成果

研究内容から発生する知的財産は、創薬、食糧問題、先端測定技術の分野で、横浜市が標榜する「世界に誇るライフサイエンス都市横浜」の実現に寄与し、地域経済の活性化・雇用創出とともに、研究成果の産業化により、市民生活の質の向上に資することを目指します。

(5) 生命科学分野の再編について

生命科学分野の再編の第一段階として、国際総合科学研究科の理系分野を生命科学の視点から「生命ナノシステム科学研究科（仮称）」に再編し、その後、先端医科学研究センターの機能強化に併せ、医学研究科等との再編を推進します。

**国際マネジメント研究科(仮称) 【入学定員】 博士前期：20名、博士後期：3名**

(1) 教育研究の内容

グローバル化に伴う国際市場環境の変化、および少子高齢化による国内市場の縮小と労働力人口の減少といった現代の企業が直面する喫緊の課題に対する、アジアを中心とした海外戦略について教育研究を行います。

(2) 育成する人材

企業の内部から競争力の強化や海外展開を支援するCOO（最高執行責任者）、CFO（最高財務責任者）およびCIO（最高情報責任者）や国際財務部門または海外展開部門のスタッフ、日本貿易振興機構（JETRO）などの政府系機関およびコンサルティング会社等のシニアスタッフとなる人材を育成します。

(3) 期待される成果

海外展開する企業の抱える新たな経営課題および、国際会計・税務分野の教育研究の成果を広く地元に戻元することで地元企業の活性化とイノベーションの促進に寄与することを目指します。

#### 4 医学研究科看護学専攻新設の概要

**医学研究科看護学専攻（仮称） 【入学定員】 修士課程：12名**

(1) 教育研究の内容

先端医療を担う2つの附属病院を有するとともに、人口360万の大都市に設置されるという特徴に鑑み、看護学の分野のうち、生命と人権の尊重を重視した先端医療看護学分野、及び大都市住民の地域生活支援に当たり、拡大する看護の役割機能を担う地域生活支援看護学分野の教育研究を行います。

(2) 育成する人材

がん看護学をはじめとした先端医療看護学分野や老年看護学をはじめとした地域生活支援看護学分野を担うことのできる専門看護師等の育成を目指します。

(3) 期待される成果

先端医療や実践的研究を支える人材の育成と、市民の多様なヘルスケアニーズに対応できる高度な看護実践者を育成すると共に、市内看護師の確保、先端医療や実践的研究を支える看護レベルの確保、看護師の離職防止などを図り、横浜市民の保健医療福祉の向上に貢献します

#### 5 中期計画の変更について

再編する研究科、新設する研究科それぞれの今後の方向性を、中期計画の「大学院教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策」の「教育の成果」及び「教育課程」に明記することとします。

## 横浜市立大学医学部看護学科の定員増について

### 1 趣 旨

本学は、2つの高度先端医療を担う病院を有し、市民の健康に大きな貢献を図ることに加え、横浜市民の健康や生活を守るために、多様な保健医療福祉のニーズに対応できる看護人材を育成し輩出する使命を有しています。

看護師不足が全国的な課題となっている中で、本学の使命を果たすために、看護学科の定員増を図り、看護師不足の解消と市内定着を図ります。

### 2 医学部看護学科定員増の内容

平成22年4月から入学定員を10名増加させ、現行の収容定員360名（1年次入学者数80名、3年次編入者数20名）を400名にします。

また、卒業生の市内定着を図るため、市内の高等学校を中心とする推薦入試制度の導入を図ります。

### 3 看護職員需給見通し

#### (1) 看護職員全国需給見通し

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
需給見通し	1,314,100	1,338,800	1,362,200	1,383,800	1,406,400
供給見通し	1,272,400	1,297,100	1,325,100	1,355,900	1,390,500
年度当初就業者数	1,251,100	1,272,400	1,297,100	1,325,100	1,355,900
新卒就業者数	51,400	51,100	51,500	51,600	52,500
再就業者数	85,000	88,200	91,200	94,600	98,400
退職者数	115,000	114,600	114,800	115,400	116,300
需給見通しと供給見通しの差	41,600	41,700	37,100	27,900	15,900
供給見通し/需給見通し	96.8%	96.9%	97.3%	98.0%	98.9%

注) 四捨五入のため、各項目の数値の合計等は一致しない。

#### (2) 神奈川県看護職員需給見通し

平成18年				平成22年			
需給見通し	供給見通し	需給見通しと供給見通しの差		需給見通し	供給見通し	需給見通しと供給見通しの差	
61,663	56,601	5,062	91.8%	76,381	75,036	1,345	98.2%

※神奈川県下は全国平均を下回っており、対策の必要性は高くなっている。

### 4 看護短期大学部卒業生の進路状況

	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
就職者合計	100	86.2%	95	84.8%	99	86.1%
就職(市内)	36	31.0%	51	45.5%	63	54.8%
就職(市外)	64	55.2%	44	39.3%	36	31.3%
進学	9	7.8%	12	10.7%	14	12.2%
その他	7	6.0%	5	4.5%	2	1.7%
卒業生数	116		112		115	

※看護短期大学部から医学部看護学科への移行（平成17年度）により、平成19年度の就職者数は3名のみ（うち2名が市内就職）